



開講20周年を迎えた公開講座「現代マネジメント研究」を受講する学生ら＝各務原市那加甥田町、中部学院大各務原キャンパス

中部学院大 公開講座

各界トップに学び20年

学生や市民、広い視野養う

各界のトップリーダーが講師を務める中部学院大の公開講座「現代マネジメント研究」は本年度、開講20周年を迎えた。講座は21年目に入り、学生や市民らが講師たちの豊かな経験やグローバルな考え方から人生の学びを深めている。(大成朋広)

同講座は、短期大学経営学科で2001年度にスタート。17年度に講座名を「現代産業研究」

から「現代マネジメント研究」に変更、対象を大学と短大の全学部に広げた。講師は延べ142人に上る。顔ぶれも多彩で、堤俊彦氏(日本耐酸塩工業、遠藤宏治氏(カイインダストリー)、宗

次徳二氏(壺番屋)ら経営者をはじめ、古田肇知事、日比野克彦氏(県美術館長)、安田多賀子氏(装賀きもの学院長)、若井敦子氏(西濃運輸空手道部総監督)ら政治、芸術文化、スポーツなど各界のリーダーが登壇した。

事務局長の今井春昭特命教授は「公開講座とすることで、市民らが学生と交流し、大学に親しみを持ってもらえることにも意義がある」と話す。本年度の講座は第2回まで終了。今後は、小栗幸江氏(美濃歌舞伎博物館相生座館長)、根本一徹氏(関市・大禅寺住職)、中村源次郎氏(秋田屋社長)、若井敦子氏、都竹淳也氏(飛騨市長)を講師に開かれる予定。受講の問い合わせは同大各務原キャンパス、電話058(375)3601。

音楽志す若者ら支援「目標持って」

「カレハウスCOCO壺番屋」創業者の宗次徳二さん(写真)は、公開講座の講師をこれまで16回務め、15年に中部学院大客員教授に就任。NPO法人イエロー・エンジェルの理事長で、クラシック音楽を愛する宗次さんに、文化振興や音楽との関わり方について聞いた。

「なゼイエロー・エンジェルの活動を始めたのか。壺番屋の事業で得た資産をいろいろな人に還元するため。文化やスポーツなどで一生懸命に頑張っている人たちに応援したい」との思いで始めた。イエロー・エンジェルとは「いろいろなエンジェル」(いろいろな人を応援するエンジェル)が由来。

「支援は音楽に関することが多い。高校1年生の時、テレビで流れてきたメンデルスゾーンのバイオリン協奏曲を聴いて、クラシック音楽が大好きになった。

COCO壺番屋創業者 講師の宗次徳二さん



むねつぐ・とくじ 1948年、石川県生まれ。両親のことを知らず幼少期は孤児院で過ごす。3歳で養父母に引き取られたが、養父がキャンブル好きで極端な生活を送った。高校卒業後、不動産会社などを経て74年、喫茶店バックカス創業。78年にカレハウスCOCO壺番屋創業。その後株式会社に化し、社長、会長を歴任して2002年に役員返上。03年にNPO法人「イエロー・エンジェル」を立ち上げた。07年にクラシック専用の「宗次ホール」を名古屋市内に設置。著作多数、近著は「独断、宗次流商いの基本」。

お薦めを三つ挙げるなら、あと二つはバルディの四季とパロッティの名アリア。音楽関係の支援として、楽器贈呈や音楽

ホール設置のほか、奨学生も70人から80人ほどいる(スポーツ分野含む)。世界最高峰のバイオリン「ストラディバリウス」

苦労は将来の財産となり、報われることを知ってもらいたい。目標を追い続け、日本の将来を担う人になってほしい。

現状維持。毎朝午前3時55分に起床し、休みなく年5千時間働く。音楽関係では、東北にホールを造れたらと思う。

「夢ではなく目標を持って」と常々言われる。例えば「1年後のコンクールで優勝する」と目標を設定し、それを達成したら次の目標、と繰り返すことで、自分の夢に近づけるのではないかと。夢を掲げてもただの願望では意味がない。

自身の目標は。現状維持。毎朝午前3時55分に起床し、休みなく年5千時間働く。音楽関係では、東北にホールを造れたらと思う。